

書 評

田部俊充・田尻信壹・小松伸之編著：『大学生のための中等社会科・地理歴史科・公民科概論』 風間書房、2022年4月刊、179p., 2,000円（税別）

2022年度から高等学校の新しい学習指導要領が実施され、いよいよ小学校、中学校、高等学校の新学習集指導要領に基づく教育が出そろった。とくに、高等学校の地理歴史科では、地理総合、歴史総合、地理探究、日本史探究、世界史探究、公民科では、公共という新しい科目が誕生した。それぞれの教科の目標や内容などをしっかり把握した授業づくりが求められる。

今回紹介する本書は、すでに、風間書房から刊行されている田部俊充編著（2021）：『大学生のための初等社会科概論』に続く、待望の中学校社会科や高等学校地理歴史・公民科の教員をめざす大学生などを対象とした教科教育のテキストである。具体的には、中学校社会科、高等学校地理歴史科、高等学校公民科の目標や内容を理解するとともに、授業単元の指導計画や本時の学習指導案の作成のスキルを習得し、教員として求められる資質の一つである実践的指導力を高めることを目的としている。

本書の構成は、以下の20章からなる（節等省略）。

はじめに一『大学生のための中等社会科・地理歴史科・公民科概論』を手にとってのあなたへー

- 第1章 中学校社会科地理的分野の目標・内容・内容の取扱い（田部俊充）
- 第2章 中学校社会科歴史的分野の目標・内容・内容の取扱い（田尻信壹）
- 第3章 中学校社会科公民的分野の目標・内容・

- 内容の取扱い（小松伸之）
- 第4章 高等学校地理歴史科地理総合の目標・内容・内容の取扱い（田部俊充）
- 第5章 高等学校地理歴史科地理探究の目標・内容・内容の取扱い（田部俊充）
地理歴史科歴史系科目の概要（田尻信壹）
- 第6章 高等学校地理歴史科歴史総合の目標・内容・内容の取扱い（篠塚明彦）
- 第7章 高等学校地理歴史科日本史探究の目標・内容・内容の取扱い（野口 剛）
- 第8章 高等学校地理歴史科世界史探究の目標・内容・内容の取扱い（田尻信壹）
- 第9章 高等学校公民科「公共」の目標・内容・内容の取扱い（小松伸之）
- 第10章 高等学校公民科「倫理」の目標・内容・内容の取扱い（増渕達夫）
- 第11章 高等学校公民科「政治・経済」の目標・内容・内容の取扱い（坪井龍太）
- 第12章 学習指導案の意義と書き方（田尻信壹）
- 第13章 学生の学習指導案例（含添削）（田部俊充・窪田美穂）
- 第14章 中等社会科学学習指導要領の変遷（齋藤慶子）
- 第15章 中等社会科におけるフィールドワーク（池 俊介）
- 第16章 日本地誌学習の特徴と課題（池 俊介）
- 第17章 中等社会科と情報教育（小山茂喜）
- 第18章 中等社会科とGIS（地理情報システム）（田部俊充・郭 明）
- 第19章 スウェーデン:現地調査にもとづく教材化の事例（1）ストックホルム・ウプサラ（田部俊充）
- 第20章 スウェーデン:現地調査にもとづく教材

化の事例 (2) ヴィスビー・世界遺産 (田部俊充)

本書を読み終えた皆さんへのメッセージ—チャレンジ! 社会科・地理歴史科・公民科授業—
解答

まず、第1章から第11章は学習指導要領編となっている。具体的には、第1章から第3章は中学校社会科(地理・歴史・公民的分野)、第4章から第11章は高等学校地理歴史科(地理総合、地理探究、歴史総合、日本史探究、世界史探究)、高等学校公民科(公共、倫理、政治経済)の学習指導要領および学習指導要領解説から、前回からの改訂(改善・充実)の要点と目標、内容、内容の取扱いについて解説されている。

次に、第12章と第13章は実践編となっている。具体的には、第12章では学習指導案の定義と役割、学習指導案の種類と条件、書き方とその留意点などについて解説されている。また、単元学習表と授業計画表が一体となった学習指導案のひな型が示されている。そして、第13章では、中学校第1学年社会科地理的分野と高等学校地理歴史科世界史探究について、それぞれ学生が作成した学習指導案例(含添削)が示されている。

第14章から第20章は理論編となっている。具体的には、第14章では中学校社会科、高等学校地理歴史科、高等学校公民科の学習指導要領の変遷を解説されており、教科としての社会科の役割を歴史的に捉えることの重要性が示されている。

第15章では、フィールドワークの現状とその教育的意義、類型とその特徴などについて述べられている。中学校や高等学校の地理学習において、さまざまな要因からフィールドワークの実施率が低い中で、フィールドワークを取り入れた授業実践例を紹介し、フィールドワークの重要性を指摘している。

第16章では、学習指導要領における日本地誌学習の特徴、課題について述べられている。学習指導要領における地誌学習の網羅的な手法から動態的な手法の導入について解説し、地誌学習の大きな目標の一つである「地位的特色を捉える」の4つのステップ(地域を多面的に捉える、他地域との比較、事象どうしのつながり、全体としてとらえる)について述べられている。

第17章では中等社会科における情報教育の位置づけなどを解説し、ICTが得意とする機能(大きくすること、動かすこと、保存すること、加工すること)の授業中での活用例と授業例が示されている。

第18章では中等社会におけるGIS(地理情報システム)の地域調査の活用などについて、中等社会系教育の関連科目を受講している大学生を対象とした池袋駅周辺での授業実践例が紹介されている。

第19章と第20章では、スウェーデン理解のために、現地調査に基づく具体的な教材化の素材が紹介されている。第19章では、世界史や現代社会、政治・経済の資料と合わせて紹介したり、第20章では観光教育教材を開発している。

最後に、読者に対してメッセージが述べられており、また、巻末に第1章から第13章の設問の解答が示されている。

以上がおおまかな本書の概要である。それでは評者の立場から本書の特色について述べたい。

第1章から第13章の学習指導要領編では、中学校社会科、高等学校地理歴史科、高等学校公民科の学習内容を深め、授業を作り上げられることができるように、学習指導要領の穴埋め問題や学習指導要領解説も踏まえて多くの設問が設けられている。

また、実践的な授業づくりのために必要な学習指導案を作成できることは、教師にとって重要な

能力である。第12章と第13章編の実践編では、学習指導案の作成経験が少ない教職希望の学生にとって、とても分かりやすいものとなっている。

第14章から第20章は理論編では、社会科の変遷、従来からいわれてきたフィールドワークの重要性、地誌学習の手法について解説されている。また、情報教育やGISの活用など現代の教育に関係する内容についても述べられている。

さらに、スウェーデンでの現地調査による地域の素材をいかした教材化については、授業づくりのために教材を収集するフィールドワーク力も社会科教員の求められる資質の一つとして重要であることがいえる。

以上のように、本書は中学校社会科、高等学校地理歴史科、高等学校公民科の全体像について、教職希望の学生にもイメージを捉えさせることができているといえる。また、思考を重視した探究

学習を考えるうえで本書は参考になる。

一方、本書の性格上、解説が中心で授業実践例が少ないので、中学校社会科、高等学校地理歴史科、高等学校公民科の各教科の学習指導案例があるとありがたい。また、授業に役立つ素材の教材化する仕方についても詳しく示して頂けるとありがたい。さらに、巻末に理論編や実践編に役立つ文献やWebページのリストがあると、授業づくりだけでなく、社会科教育の研究に取り組みたい学生さんにとっても便利だと思う。

このように、本書は、是非、多くの社会科教員志望の学生さんに、是非、読んでもらいたい1冊である。本書を活用した新学習指導要領に基づいた授業が数多く実践され、色々と評価されることを願う。

(深瀬浩三)